

でに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上がり一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望

編集後記

冒頭から私事で申し訳ない次第ですが、昨年末に頸部腫瘤の手術をうけました。

入院中にあれもしよう、これもしようと思定していましたが、二時間半の手術の割に六日後に退院させられてしまい、遂に何も出来ませんでした。寒さの中、抜糸のために通院という仕儀でした。

この様なことで、編集委員会もとうとう四ヶ月もお休みしてしまい、全く委員会の議論の流れを知りません。かようなものが、編集後記、しかも総会のための抄録号の後記を書くのめいかがかと存じますが、執筆は輪番となっていますのでご了承ください。

毎年のことながら、この抄録号は各編集委員に約十三演題分の原稿と校正用ゲラ刷りが渡されて私共の編集作業がはじまる。

者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒二三一八四三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

その段階で字数のオーバーや横文字のはつきりしない原稿であると作業のスピードはぐつと落ちてしまう。今日はFAXという便利な機器で大助りではあるが、大先輩の原稿を勝手にけづれないので、苦心して字数枠におさめる等、かなりの苦しさを感じるのである。

外国語の苦手な小生にとっては、ラテン語、フランス語、オランダ語などが、づらづらと続くと結局辞書をひきつつ校正をすることになる。読めない字がある時の困惑は予想を上まわるものである。三十年ほど前、役所から、もう少しきれいな字を書いて下さい、といわれた先輩が居られたが、その様な失礼は申せない。二十一世紀が目前にせまった。全原稿がワープロ打ちで出来上れば、愚痴は非常に少くなる……。

(中西 淳朗)